第4回たかまつ創生総合戦略懇談会

日時：平成27年9月25日（金） 午後6時30分～

場所：市役所13階 大会議室

次 第

1 開会

2 議題

(1) たかまつ創生総合戦略（仮称）の検討について

(2) その他

3 閉会

たかまつ創生総合戦略（仮称）検討用シート_GW結果

		意見統合・集約	
基本	施策の基本的方向	「高松らしさ」と具体的な施策	懇談会意見から想定される事業
① 創造性豊かである。人間中心のまちを創る。	(1)地域を支える産業の振興と経済の活性化 (2)文化芸術の振興 (3)スポーツの振興 (4)訪れたい観光・MICEの振興	【高松らしさ】※現状を含む ・駅から島までが近いうえに、アクセスが良い ・（航空路線の効果か）外国人観光客が多い ・四国で唯一、中国・台湾・上海便がある ・食事をする場所や宿泊施設が少ない ・市長が旗を振って「高松らしさ」を強く言い続ける ・アート（瀬戸芸や国際ピアノ） ・盆栽などが有名であるがPRが不足している、盆栽は名前先行になっている ・香川は四国一物価が安いためスーパー激戦区になっている ・スポーツ（例：野球、広島） ・スポーツは裾野が広い	懇談会意見から想定される事業 ・中央商店街にぎわい促進事業 ・中小企業人材確保・就業機会拡大事業 ・企業誘致・起業支援による地域産業活性化促進事業 ・人・農地プラン推進事業（青年就農給付金事業） ・卸売市場活性化推進事業 ・伝統的ものづくり支援事業
		【具体的な施策】 (1)地域を支える産業の振興と経済の活性化 (2)文化芸術の振興 ① 取り組み続けることで本物（高松らしさ）にしてい ② 市民に落とし込んでいく施策を考えていく (3)スポーツの振興 ① スタジアムや体育館などのスポーツ施設をサポートに集める ② スポーツで人を集める (4)訪れたい観光・MICEの振興 ① 祭りなど地域の文化を大切する ② 芸術祭が定着するように、島と島を結ぶための交通の便をよくし、島内の環境・交通の便もよくする ③ 高松はアートに力を入れているまちという刷り込みを行っていく ④ 日本アカデミーの表彰の舞台を誘致する（例：女木島を開催地として誘致し、カンヌ映画祭のように港から赤いカーペットを敷くなど） ⑤ 花火大会を4年に1回開催にし、日本一・世界一の規模の花火を打ち上げる ⑥ ドイツのロマンチック街道のように、そこに行けば何かあるというようなまちづくりを目指す ⑦ 交通の利便性を向上させる（市外からの移動だけでなく市内の移動の利便性を向上させる） ⑧ 自転車文化を推進する環境を整備する ⑨ インフラを活かした戦略をする ⑩ 既存の施設（例：サンポート、大学など）を活用し、点と点をつなぎ面で展開していく（高松市内だけでなく四国エリアに範囲を広げる） ⑪ 食事をする場所や宿泊施設を充実する ⑫ アフターコンベンションの魅力づくりをする ⑬ 四国を売るコンベンションを行う ⑭ 香川流（島で食・宿をすべて）を提供する	※ 耕作放棄地活用事業（生薬、オリーブの栽培）F ※ 高松ブランド創出事業（伝統的ものづくりと現代技術の融合）F ※ （過疎・離島限定）IT企業誘致事業 G ※ 共同食品加工施設整備事業 A ※ 夜のアートイベント事業 J ※ 美術館夜間開館事業 J ①② サポート総合スポーツ施設整備事業 ※ 「健康市民デー」普及促進事業 H ※ スポーツツーリズム推進事業 J ② 航路確保事業 ② 島内交通確保事業 C ④ 日本アカデミー表彰誘致事業 ⑤ （話題性のある）花火大会開催事業 ⑦ 交通の利便性向上事業 ⑧ 自転車環境整備事業 ⑪⑫⑭ 観光地プロデュース支援事業 ※ ふるさと名物応援宣言による体験型観光促進事業 E ※ 大規模スポーツ施設・アリーナ整備事業 F ※ 海外誘客受入態勢整備事業 F ※ アフターコンベンション整備事業 J ※ アフターコンベンション観光モデルコース募集事業 N ※ （ターゲットを絞った）動画サイト作成事業 K

たかまつ創生総合戦略（仮称）検討用シート_GW結果

		意見統合・集約	
基本	施策の基本的方向	「高松らしさ」と具体的な施策	懇談会意見から想定される事業 主な事業
② 若者から選ばれるまちを創る	(1)大学等高等教育の充実 (2)移住・交流の促進 (3)就業環境の充実	<p>【高松らしさ】※現状を含む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飲食業の割合が高い ・若者たちが県内の優良な会社を知る機会が少ない ・県外の大学に進学すると地元に戻って来ない（優秀な人材が流出して戻って来ない） ・県外に転出した人は「働く場がない」と思い込んでいる ・親も県外進学させたがっている ・香川大学に「ウリ」の学部がない ・高校が市内に16校あり、専門が多岐に渡っているため魅力があるが、それを引き継ぐ大学がない（転出につながっている） ・専門の高校（漆芸）がたくさんあるが大学になると県外に行ってしまう ・体験型イベントが若者に喜ばれる ・ITによりどこでも仕事ができる（＝起業のチャンス） ・高松は住みやすい、平野が多く災害が少ない ・高松市は「小さい東京」である ・都会が期待する田舎感に欠ける ・地産地消で生活できる ・移住・交流に関して市の職員は危機感を持っていない ・Uターンには向いているがIターンやJターンには向いていない 	懇談会意見から想定される事業
		<p>【具体的な施策】</p> <p>(1)大学等高等教育の充実</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 地元国立大学農学部で成功事例を作る ② 大学に芸術系・建築系の学部を設置する ③ 社会人も入学できる大学院大学を設置する ④ 大学のレベルをあげる <p>(2)移住・交流の推進</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 「ちょっと都会」「ちょっと田舎」をキーワードとする ② 長期的に家・土地を貸して「お試し移住」してもらう ③ 交流人口を増やすハブ機能を強化する ④ 目立っていない優良中小企業を子どもにPRし、地元キッズニアなど子どもの職業意識を早いうちに自覚めさせる（優良中小企業と子どもを結びつけ、興味を持って体験して地域に誇りを持つ体験をさせる） ⑤ 雇用の場を確保する ⑥ 高卒でも働ける場所を増やす ⑦ 行政機関が雇用を創出する ⑧ 進学するまでに県内で就職することのメリットを教える ⑨ 地元の文化に触れることで子どもの創造性を高める（例：漆器、手毬、盆栽などの「文化」、瀬戸内海などの「自然」、素材や料理などの「食」を通して感動・経験を重ねて人とふるさとをつなげる） ⑩ 高松市に戻って来て働きたいと思ってもらえる取り組みをする ⑪ Uターンしやすい環境を作る ⑫ 奨学金（例：大学の授業料免除、高松市で就職すれば免除など）を創設する ⑬ 「楽しくないと集まらない」「楽（らく）でないと続かない」をキーワードとする ⑭ 高松市よりふれあい「密な三豊・志度を参考にする ⑮ サンボートの活用（例：土日の駐車場開放し若者を集めるなど） ⑯ 空き地を定住者に市民農園として貸し出す <p>(3)就業環境の充実</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 中小企業を守る ② 創業企業の補助金を活用する ③ 創業者の相談にワンストップで対応する相談窓口を作る ④ 職人（漆器など）を養成する 	<p>① 大学研究費助成事業</p> <p>※ 福祉系高校、大学新設事業 C</p> <p>※ 大学院新設事業（芸術・デザイン・建築） A</p> <p>※ 要支援生徒の高校進学支援事業 B</p> <p>② 「お試し移住」事業</p> <p>④ 地元企業見学（体験）推進事業</p> <p>④ 職業体験プログラム推進事業 F</p> <p>④ 体験型宿泊施設支援事業 G</p> <p>⑨ 伝統文化体験事業</p> <p>⑪⑫（大学生向け）Uターン促進奨学金事業</p> <p>⑪⑫ （県内就学者向け）家賃補助事業 F</p> <p>⑪ 移住者による移住コンシェルジュ事業 J,M</p> <p>⑪ Uターン相談窓口整備事業（高校同窓会事務局に委託） J</p> <p>⑪ （移住者向けの）空き家バンク改修事業 K</p> <p>⑮ サンボート週末活用事業</p> <p>③ 就業支援推進事業</p>

たかまつ創生総合戦略（仮称）検討用シート_GW結果

		意見統合・集約	
基本	施策の基本的方向	「高松らしさ」と具体的な施策	懇談会意見から想定される事業
③ 子 ど も を 生 み 育 て や す い ま ち を 創 る	(1)子どもが健やかに生まれ育つ環境の充実 (2)男女共同参画の推進 (3)社会を生き抜く力を育む教育の充実	<p>【高松らしさ】※現状を含む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持ち家志向や教育費の負担の面で無理をして働いている ・給食費の状況などがどうなっているか調べる ・大都市圏と比較して高松は優位な点が多い ・教育（教育は広く誰にでも関わる分野である） ・教員の長時間労働の是正（事務報告スキルがないため悪循環になっている） ・働き続けるには託児施設が偏っている ・子どもを海で遊ばせたいが、海水浴の機会が少なくなっている ・子ども時代が楽しくないと、大人になって戻って来ない 	懇談会意見から想定される事業
		<p>【具体的な施策】</p> <p>(1)~(3)共通</p> <p>① 10年ぐらいのスパンで取り組みを続ける</p> <p>② 取り組みを決めて、資本を集中させてドンとやる</p> <p>(1)子どもが健やかに生まれ育つ環境の充実</p> <p>① 医療だけでなく教育を無償化する（どの程度の財源が必要か試算する）</p> <p>② 教育を無償化する（例：大学まで無償化するなど）</p> <p>③ 小学校・中学校・高校まで無償化し、家族や若者呼び込む</p> <p>④ 奨学金を充実させる</p> <p>⑤ 体験型食育プログラムを実施する</p> <p>⑥ 日本一子育て環境が充実しているまち（「子育てするなら高松市」）を目指す</p> <p>⑦ 子どもが育つ環境の中で文化・自然・食に触れさせる機会を作る（刷り込みをして“地域愛”を持ってもらう）</p> <p>⑧ 運動場などを活用し、高齢者との関わりを拡充していく</p> <p>⑨ 国立療養所大島青松園には国の政策で人権侵害を受けた方がいるので、人権学習を通していじめ問題を考える（例：DVD作成など）</p> <p>⑩ 高松で生活することの優位性を発信する</p> <p>⑪ 特化して集中的に施策を行い成功事例を作る</p> <p>⑫ 親との近居を支援する（例：住宅のリフォーム代の支援（福井で先進事例有））</p> <p>⑬ 同窓会に関する支援をする（統計的に結婚に結びつく可能性が高いため）</p> <p>(2)男女共同参画の推進</p> <p>① 男中心社会を止めてイクメンを推進（例：高松市役所の職員で育児休業を取得した職員がイクメン宣言（「僕たちイクメン職員です」）、CM作成など）をする</p> <p>② 女性が働きやすい社会にする</p> <p>③ 女性が働き続けられる環境を作る</p> <p>④ 夜間不妊治療センターを作り、男性も行きやすい環境づくりをする</p> <p>⑤ 若い世代の声を聞く場を作る</p> <p>(3)社会を生き抜く力を育む教育の充実</p> <p>① 教育レベルを上げて人口を増やす</p>	<p>①②③ 高校授業料免除事業</p> <p>④ 奨学金支給事業</p> <p>⑤ 体験型食育プログラム推進事業</p> <p>⑦ 高松版教育カリキュラム編成事業（自然学習、実習等体験）I</p> <p>⑩ 高松暮らしPR事業</p> <p>⑫ 近居のための住宅支援事業 G</p> <p>⑬ 同窓会開催経費補助事業</p> <p>※ 日本版ネウボラ（妊娠から子育てまでの継続的支援拠点）整備事業 D</p> <p>※ 芸術士教育拡充事業（PR含む）A</p> <p>① イクメン宣言企業応援事業</p> <p>① イクボス宣言企業応援事業 F,G,M</p> <p>② （サンポート地区に）託児所新設（誘致）事業 N</p> <p>②③ トライアル就労支援事業 C</p> <p>③ 男性向け生活自立力向上事業 I</p> <p>※ （著名講師陣による）特別授業・講座実施事業 K</p> <p>※ 要支援児童・生徒への支援強化事業 B</p>

たかまつ創生総合戦略（仮称）検討用シート_GW結果

		意見統合・集約		
基本	施策の基本的方向	「高松らしさ」と具体的な施策	懇談会意見から想定される事業	主な事業
「人口減少社会に 高齢者が健やかに 暮らし続ける戦略」 ④ 高齢者が健やかに暮らし続けるまちを創る	(1) 支え合い、自分らしく暮らせる福祉社会の形成 (2) 健康で元気に暮らせる環境づくり	【高松らしさ】※現状を含む ・介護業界の負担が大きくなっている ・医療・介護の取り組みが遅れている ・若い人には問題視されていないが、高齢者にとっては大問題である		
		【具体的な施策】 (1) 支え合い、自分らしく暮らせる福祉社会の形成 ① 認知症の予防が重要である ② 老人介護（例：介護施設や家庭内介護など）を支援する ③ 介護保険料を安くする ④ 高齢者の居場所をつくり、管理・運営をしてくれる人材を確保する（老人会・社会福祉協議会・婦人会の連携が上手くいっているところは人が集まっているため） (2) 健康で元気に暮らせる環境づくり ① 高齢者が出歩く目的が必要である ② 歩くことで医療費が抑制する（取組事例あり） ③ 運動促進キャンペーン（例：ウォーキング、ラジオ体操など）を実施する ④ コミュニティスポーツをできる環境を作る（1つのスポーツだけではなく、さまざまなスポーツができる環境を整備し推進していく） ⑤ 保健所機能を充実させる ⑥ 健康は「食」と「運動」であるため、食育を推進する	② 介護者サロン事業 C,L ④ 高齢者居場所づくり事業（子育て居場所と併設） G,H ※ 高齢者世帯の地域見守りシステム構築事業 H ※ 買物機会継続への支援事業 E ※ CRCR検討事業 F ① 小公園（広場）整備事業 I ③ 各地区ちよっと運動促進事業 ③ ラジオ体操推進事業 G ⑤ 健康管理講座事業 K ※ （ランニング・ウォーキング）緑道整備事業 A	・医療介護連携事業 ・高齢者居場所づくり事業 ・高齢者見守り事業 ・徘徊高齢者家族等支援事業 ・生活支援・介護予防サービス提供体制構築事業 ・認知症ケア推進事業 ・地域ケア会議推進事業 ・ユニバーサルデザイン推進事業 ・がん対策推進事業 ・夜間急病診療所運営事業

たかまつ創生総合戦略（仮称）検討用シート_GW結果

		意見統合・集約	
基本	施策の基本的方向	「高松らしさ」と具体的な施策	懇談会意見から想定される事業 主な事業
開 る 。		<p>【高松らしさ】※現状を含む</p> <ul style="list-style-type: none"> コンパクトエコシティ特区の指定を受けている フェリー・JR・ことでんが集結している場所がある 将来的に四国の中心は高松が担う 若い人には問題視されていないが、高齢者にとっては大問題である 	
		<p>【具体的な施策】</p> <p>(1)～(8)共通</p> <p>① ここなら本当に住みたいと思ってもらえるまちをつくる</p> <p>(1)安全で安心して暮らせる社会環境の形成</p> <p>① 安全面について全国データで見える化する</p> <p>(2)豊かな暮らしを支える生活環境の向上</p> <p>① 若者と田舎の高齢者がシェアハウスする ② 田舎の家を活用する（造りがしっかりしているため） ③ 空き家を安く若者に貸す</p> <p>(3)コンパクトで魅力ある都市空間の形成</p> <p>① 「若者を田舎へ」をキーワードとする ② 高松市ならではの近い田舎を作る ③ 畑や農業をする</p> <p>(4)快適で人にやさしい都市交通の形成</p> <p>① 公共交通機関の充実（例：バスの路線と時間の充実など）</p> <p>(5)拠点性を発揮できる都市機能の充実</p> <p>(6)地域コミュニティの自立・活性化</p> <p>① コミュニティを再生する ② リタイアした方にボランティア活動を担ってもらう（役割を与える⇒認知症予防につながる⇒ポイント付与・情報提供） ③ コミュニティ税などを導入し財源を確保する ④ 自治会の加入状況を把握し自治会がないところは作る</p> <p>(7)連携の推進</p> <p>(8)健全で信頼される行財政運営の確立</p>	<p>① 高松の住みよさ P R 事業</p> <p>① 空家のシェアハウス改修事業</p> <p>※ 空家法律相談事業（相続） C</p> <p>※ 空家・空き地活用事業（滞在型市民農園、都市緑化整備） A</p> <p>※ 電柱地中化事業 A</p> <p>※ ジェントリフィケーション（集約拠点の再開発による高級化）事業 A</p> <p>① 公共交通利用促進事業</p> <p>※ コミュニティバス運営促進事業 H</p> <p>※ レンタサイクル地上拠点整備事業 A</p> <p>※ L R T（次世代型路面電車）を導入 N</p> <p>② 高齢者ボランティア活動促進事業</p>
⑤	<p>持続可能なまちを創る</p> <p>(1)安全で安心して暮らせる社会環境の形成</p> <p>(2)豊かな暮らしを支える生活環境の向上</p> <p>(3)コンパクトで魅力ある都市空間の形成</p> <p>(4)快適で人にやさしい都市交通の形成</p> <p>(5)拠点性を発揮できる都市機能の充実</p> <p>(6)地域コミュニティの自立・活性化</p> <p>(7)連携の推進</p> <p>(8)健全で信頼される行財政運営の確立</p>		

たかまつ創生総合戦略（仮称）御意見等記載シート

戦略	基本目標	施策の基本的方向	委員氏名	「高松らしい施策」などについて、御意見を御記入ください。
<p>【人口減少を抑制する戦略】</p> <p>・若者から選ばれる、子どもを呼び育てやすい、新しい創造性の豊かな流れを創る。</p>	<p>①創造性豊かで人間中心のまちを創る</p>	<p>(1)地域を支える産業の振興と経済の活性化 (2)情報化戦略の推進 (3)文化芸術の振興 (4)スポーツの振興 (5)訪れたい観光・MICEの振興</p>	A	<p>・食のもののづくりスタジオFERMENTのような、食品のFab（ファブリケーションの略、製造）スペースを提供する。 個人で購入するには高額な機器（3Dプリンタ、レーザーカッター）を備えた、瓶詰加工・調理加工の免許施設 ⇒6次産業化 農家が設備を導入して加工食品を作ることはハードルが高いので、Fab cafeのような食品加工施設を公共施設として整備することが地方都市で有効と考えます。</p>
			C	<p>(5)②タクシーのほか、島は坂が多く電動自転車でも大変です。例えば、タイのトゥクトゥクのような乗り物を充実させてはどうでしょうか。男木島のお年寄りが押しているカラフルな老人車のようにアートに取り入れるのもいいと思います。他県でも芸術祭をおこなっていますので、環境やサービス面の充実を図るなど差別化を図っていくことが今後の課題のひとつではないでしょうか。</p>
			E	<p>(1) 地域を支える産業の振興と経済の活性化 【意見】 ・中央商店街にぎわい促進事業 ・企業誘致・起業支援による地域産業活性化促進始業 ・伝統的ものづくり支援事業 上記事業は、経済産業省所掌の事業に関する事業であり、戦略に盛り込まれることは当省の政策と合致している。</p> <p>(5) 訪れたい観光・MICEの振興 【検討依頼】 ・改正地域資源活用促進法に基づき、中小企業者等が地域産業資源を活用した新商品・ 役務の開発・生産・重要開拓等の事業計画を作成し、国の認定を受けて補助金等の支援を受けることができる（従来）こととなっているが、今般の改正により新たに地域産業資源を活用した体験型観光（農業体験・産業観光等）を対象事業に追加されたことから、高松市においても『ふるさと名物応援宣言』を行うことにより、優先的に補助金採択を受けることが期待できるため、地域産業資源活用が図られるよう後押しを行う。 【依頼理由】 ・高松市の中小企業事業者の振興が図られるため。</p>
			F	<p>(1)高松市の伝統的産業・文化が高齢化し、担い手不足や耕作放棄地の増加により縮小傾向にある。耕作放棄地の活用では、需要がある生薬の栽培をする等の新たな産地の創出等に注力する必要がある。また、盆栽事業は高齢化により若者の新規就農が少ないのが現状である。盆栽だけでなく、県が進めるオリーブプロジェクトに賛同し、オリーブ事業との併用（比較的切り替えが容易）を新産業として普及していく等の取り組みがある。このように「伝統的ものづくり支援事業」を現代の技術と融合して、産業の掘り起しを行い、新たな高松ブランドを確立する。その見つけ出した魅力ある産業・文化を全国に情報発信し、後継者を見つけ、産業の発展・移住促進を図っていく。</p> <p>(5)「自転車文化を推進する環境を整備する」という意見は、高松をゆっくり・広く見てもらうという観光面及び、女性・子供が安心して生活できるという観点からも取り入れたい案だと思う。</p> <p>そのほかにも郊外にある既存施設の老朽化による建て替えに伴い大規模スポーツ施設のまちなか整備を行い、スポーツのみならず音楽や文化イベントで使用できるアリーナ建設で、新たな大規模集客ができるイベントの開催等が可能になると考える。</p> <p>記載項目以外にも、近年増加する外国人旅行者への対応を整備する必要がある。言語の問題や受け入れ態勢整備を充実させて、商店街や観光地に新たな収益源を確保していく施策をお願いしたい。</p>
			G	<p>① 芸術士派遣事業のさらなる推進 塩江や女木・男木島のネット環境強化し都会のIT企業誘致（イメージ神山） 屋島の環境美化強化 遍路道の環境整備（県・四経局連携）</p>
			H	<p>・特徴的な文化芸術イベントを根付かせる。 ・体育の日の行事を市民に浸透させて、「健康市民デー」に。</p>
			I	<p>1 基本目標の見直しをする。人間中心のまちをつくるという目標自体が良くない。高松市が置かれている現在の立地状況から考慮し、謙虚になるべきである。下記の目標へ変更検討を強く望む。 「豊かな自然と共存できるまちの創生を目指す。」 2 施策の基本的方向へも上記項目を追加する。 3 少子・高齢化による人口減少に歯止めをかけることは難しい。人力を大きく要する施策発想を転換し、少人口で運営でき、費用対効果が大きい施策にシフトを検討する。多様な分野における情報化戦略の推進が重要課題と考える。</p>
			J	<p>(3)文化芸術の振興 瀬戸内国際芸術祭の入り口として位置しているがあまり連携していないように感じる。特に観光客は高松に泊まる人が多いと思うので、夜のアートイベントをしてはどうかと思う。高松の美術館夜の開館など、夕方以降も楽しめるコンテンツやアートナイトなどを開催してもよいと思う。今回玉藻公園で開催したshirocafeなどは夜遅くまでやっており、家族連れより女性で30代以上、ある程度生活に余裕がありそうな層が多かった。家族連れや幅広い層にアプローチすることも重要と考えますが絞った層に単価を高くアプローチしてもよいか感じます。</p> <p>(4)スポーツの振興 スポーツツーリズムにもっと尽力すべきだと思う。香川、ことさら高松市に関してはとてもアクセスがよく高松トリアスロンに関しては県外の選手も多数参加している。県外の選手が楽しみにしているのは「アフター大会」。開催地でその後遊ぶ、お土産を買うという楽しみがある。このような大会を開催する場合は大会会場にコンシェルジュやすぐに案内ができる人を置くべき。（実際に高松港から出る船に関してたくさん県外選手から聞かれました） また、市としても大会と連携し、高い前後も楽しんでもらえるような体制作りが重要と感じます。</p> <p>(5)訪れたい観光・MICEの振興 大きな国際会議場があるのでぜひ活用していただきたのとその後のアフターコンベンションにもぜひ力を入れていただきたいです。</p>
			K	<p>高松の個性を創造性・心の豊かさの角度で価値あるブランドに育てるための施策として①自転車・電車・バス・飛行機をつなぎ、利便性の高さをコンパクトエコシティを実現。②自転車文化の振興、生活の足である自転車をレジャー、スポーツに発展させるしかけを。③海、山、ため池での自然研究とアートシーンの場づくり。以上、活動と共にこれまでまとめて伝えられてこなかった高松の価値を30代目線（ターゲット設定が肝心）で発信する動画サイトを制作、拡散する。</p>
			M	<p>経済の活性化の中に、働きやすい環境（WLB＝ワークライフバランス・男女共同参画等）の概念を盛り込む施策</p>
			N	<p>MICEの振興 ・サンポートと香川大学等の施設予約連携を拡大→前広に ・アフターコンベンションの観光モデルコースの充実 例：体験型瀬戸内クルーズモデルコース 港・トイレ・島内の足・食の確保 インバウンド促進 定住人口1名≒インバウンド10名 ・宿泊箇所 Wルーム拡充 既存の古民家を改造して、宿舎とし、ネットワーク化する。 ・各言語案内を充実 Wi-Fi、QRコード、案内所等</p>

戦略	基本目標	施策の基本的方向	委員氏名	「高松らしい施策」などについて、御意見を御記入ください。
「人口安若減少しから抑選ばすを創、出子略しども呼育びて込み、新し創性豊な流れをちつく創る。」	②若者から選ばれるまちを創る	(1)大学等高等教育の充実 (2)移住交流の促進 (3)就業環境の充実	A	<p>・地域の仕事や働き方の魅力を情報発信</p> <p>・義務教育の無料化</p> <p>・芸術・デザイン・建築の大学院</p>
			B	<p>基本目標②-(1)に関わる施策の実行・充実こそ重要と考えます。</p> <p>基本目標②</p> <p>(1) 高等学校への進学率の更なる向上及びそれに準ずる機関の受け入れ態勢の充実</p> <p>上記目標達成こそ重要であり、また、今行われている婚活支援など子育て以前の段階での本当の意味でのサポートなどが今回の最重要課題と考えます。</p> <p>また、これらを実現するためには、行政のみならず、コミュニティ（地域）・企業におけるCSR（企業の社会的責任）CSV（共通価値の創造）などによって、子育て世代への理解・協力が必要と思います。</p>
			C	<p>(1)香川県に社会福祉学部がある大学は四国学院大学のみです。社会福祉士は福祉の担い手です。スクールSW、生活保護のCW、医療SW、施設、介護事業等の生活相談員、地域コミュニティーワーカー等、必要とされている人材です。時には、その人の生活課題を含め、クライアントに寄り添いながらその人の力を引き出す支援をすることが必要な就労支援等、活躍の場を広げる可能性のある職種です。更なる、高齢化の中、将来を見据えて福祉の心を育み、その担い手を確保しておくことは早急の課題ではないでしょうか。そのためには高松市に社会福祉学部はもちろん、高校から福祉を学ぶことができる特色のある学科があってもよいのではないのでしょうか。また、障がい福祉課や生活保護課のCWに社会福祉士を採用し、専門性を強化することもこれからは必要ではないのでしょうか。</p> <p>(3)(4) 引きこもりの生活をしている方は人間関係を築くのが苦手な方が多いと思います。引きこもり支援をしているところと連携し、中でも手先が器用だとか、ひとりでコツコツとできる仕事が得意だという方に、ポイントはジョブコーチをつけた上で職人の技術を継承していくというような引きこもり支援とマッチングするような事業はできないのでしょうか。</p>
			E	<p>(1) 大学等高等教育の推進</p> <p>【検討依頼】</p> <p>・若者が県内の優良企業を知る機会が少ない、県外に転出した人は「働く場所がない」と思い込んでいる等の委員の意見を受けて、例えばGNT（グローバルニッチトップ企業）、県内の中堅・中小企業において、インターンシップ受け入れ事業を強化することで、就職に結びつく情報発信（会社の技術、社員、雰囲気など）を行うことが可能となる。</p> <p>【依頼理由】</p> <p>若者の大手企業への就職志向はあるものの、最近「仕事のやりがい」等が就職動機の上位にあることから、高松市独自のインターンシップの導入により、教育内容がより実践的になることが期待されるほか、中堅・中小企業における人材確保にも資する。</p> <p>(2) 移住交流の促進</p> <p>【意見】</p> <p>・中心市街地におけるバス利用促進・コトデン瓦町ビル活用事業</p> <p>上記事業は、経済産業省所掌の事業に関する事業であり、戦略に盛り込まれることは、当省の政策と合致している。</p> <p>○進学等で転出した若者に対するUターン対策</p> <p>進学等で転出した若者に対して、地元の優れた企業情報を提供することにより、Uターンに結びつけることについて、人口を増加させる方策の一つとして検討されては如何でしょうか。</p> <p>進学等で転出した若者は、就職する際に、地元で大企業が少ないこと、魅力ある企業が少ないこと、親が親の知らない企業への就職に反対すること等により、Uターンしてこないケースが多くなっています。こうなる原因は、若者や親が地元の優れた企業を知らないためであり、Uターンしない若者や親に地元の優れた企業の情報を提供することにより、地元企業への就職を選択させることが必要です。</p> <p>企業情報の提供は、高松市単独で行ってもよいが、香川県、県内の他の市町、高松商工会議所等と連携して実施した方が、企業の数、種類が増え、選択肢が広がるため有効です。</p> <p>それから県内の大学等にも企業情報を提供することにより、Uターンに結びつけることも期待できます。</p> <p>また、企業情報の提供は就職時だけでなく、若年時から行うことが効果的であり、例えば小学生の工場見学時に優れた企業を見学したり、中学生の社会科で企業情報を周知したりすることも有効だと思います。</p>
			F	<p>(1)地元企業を知る機会を増やす目的で、職業体験プログラムを充実していただきたい。</p> <p>(2)若者が地元に残らないのは、親の教育によるものが大きい（都会に行って、いい大学に入って、いい会社にはいれるように、一生懸命勉強しなさい。）もっと、地元の魅力（地元のすばらしさ）や産業を幼少期から教えることが重要（⑧・⑨の意見）。⑩の意見は継続的に行っていく必要がある。</p> <p>(3)創業及び魅力ある既存企業への支援強化はとても重要であるとする。また、地元企業と就業者の人材マッチングを促進していく必要がある。その他、県内就業者へのインセンティブの設定（家賃補助助成金の創設）。</p>
			G	<p>② 塩江、セカンドステージさんが展開している事業の横展開（塩江内全域での連携）</p> <p>「企業子宝率」を導入し高松市内の企業の子育て支援を見える化</p> <p>イクボス宣言したらどうか</p>
			H	<p>・若者から選ばれるまちづくり。</p> <p>・市民活動団体の支援・充実。</p>
			I	<p>1 若者には今までの右肩上がり経済社会価値観とは異なる価値観が育っている。団塊の世代前後の意見より未来を生きる若者たちの意見をくみ上げて欲しい。</p> <p>教育、移住交流の促進、就業環境の充実には、全てダイバーシティ目線が重要。何よりも、女性が生き暮らしやすい場所は若者にとっても生き暮らしやすく、選ばれることが高いまちである。</p> <p>2 香川県出身者で、東京在住比率は低い。大半は、大阪など近辺に在住している。彼らは仕事ときっかけとチャンスがあれば、Uターンを希望している。また、香川県で転勤生活経験者で既に終の棲家としてのUターンが進行中。</p>
			J	<p>(2)移住交流の促進</p> <p>移住してくる際に香川県内のいろいろな移住制度を見てきたのですが高松市としてもフォロー制度は手薄と感じました。首都圏から来て移住したのものにとっては特に支障なくスムーズには生活できるのですが、利便性が一番になりそれ以外の魅力としては他の市よりは若干薄いように感じます。移住を検討する場合、一番困るのが宿泊になりますので宿泊をサポートしていただけるととてもありがたいと感じます。</p> <p>また、自治体などに移住促進担当の方はいるのですが、実際に移住してきた人ではないですし、その自治体の職員の方が多いと感じます。実際に移住経験のある人にコンシェルジュとして入ってもらった方がなかなか相談できないこともできるのではないかと感じます。</p> <p>Uターンに関しては移住の可能性が高いと思います。香川県は高校のOB会組織が強いのでその強さを利用して、各高校のOB会組織に若手の移住相談役などを作れば戻ってくることを検討している人の後押しができるのではないのでしょうか。</p> <p>(3)就業環境の充実</p> <p>香川にはオンリーワン企業がたくさんありますがこれから就職を希望する若手の求職者にうまく露出できていないのではないのでしょうか。バスツアーなどの開催で現場を見たり、海外から評価されている状況を伝えたりできる場があればと思います。香川から大学進学のために出た人は香川には仕事がないと思込んでいるのですが実際仕事はあります。それを認知してもらう必要性があります。</p> <p>また、若い求職者が魅力とを感じる仕事はまだまだ少ないのかもしれないのですが、その場合は自分で起業する方法もあります。首都圏、関西圏へのアクセスのしやすさを武器にし、香川でビジネスを始めたい人へのサポートを行うことで、3年後、5年後の雇用の創出につながると思います。</p>
			K	<p>大学を中心に社会貢献につながる一つのテーマを設定、先進的な研究と人材育成を行う。一つのモデルケースとして、香川大学医学部、農学部、地元加工食品中小企業、市場を連携させた「食医学」の分野など。外から見て普遍的なニーズのある分野で考察する。</p> <p>「若者から選ばれる」点では、発信前の編集力とデザイン性が肝心。また、移住者向けに重要なのは「住居」の斡旋。空き家利用の為にプロジェクトと海、山、都市部を明確にニーズ分けした斡旋サイトが必要では。</p>
M	<p>移住交流の部分では「高松市ロールモデル移住者・Uターン者」をもっとアピールする</p>			

戦略	基本目標	施策の基本的方向	委員氏名	「高松らしい施策」などについて、御意見を御記入ください。
「人口安若減定者少しかをたら抑雇選制用ばすをれる創、戦出子略、もひをと生をみ呼育びて込やみ、い、新、創、造、性、ひ、と、豊、か、流、れ、ま、ち、を、つ、く、創、る。」	③子どもを生き育てやすいまちを創る	(1)子どもが健やかに生まれ育つ環境の充実 (2)男女共同参画の推進 (3)学校教育の充実	A	<ul style="list-style-type: none"> ・都市公園と緑地の検索Webサイトを充実 ・緑道と無料の公園整備 ・芸術士教育のPR、全国留学
			B	基本目標③に関わる施策の実行・充実こそ重要と考えます。 基本目標③ (1) a 小・中とも学校施設の充実。各関係機関と連携し、施設（校舎・運動場等）有効活用の実施。 b 要支援児童・経済的サポートが必要とされる児童への配慮 (1) 子ども子育て支援の充実。 (2) 土曜日を利用した授業への取組
			C	(2)②③育休を取得するためには、代替職員が必要な場合があります。代替職員と企業のニーズをマッチングできるような相談支援ができる専門のところを作れないでしょうか。企業と働き手の両方を登録制として、例えば働き手はリタイア後の方とか、その期間だけ働きたい方とか、それを機会に育休明けにも引き続き雇用してもらいたいというようなトライアル的な就労支援とマッチングできないでしょうか。ハローワークで他の求人にも埋もれてしまうのではなかなか代替職員には結びつく率は低いと思います。育休がとりやすい環境を整えるために熱心に相談に乗ってくれる窓口が必要です。
			D	○各団体や地域子育て支援拠点の個々の熱心な活動をつなげ、線やさらに面で情報を共有し連携を強化する。 ○妊娠・出産・子育てへの継続的な支援のための拠点整備及び連携（フィンランドのネウボラを参考に、日本版ネウボラを立ち上げる）。
			F	(1)親が子供を育てる環境作りは非常に大切であり、教育費等の資金面の補助は大変魅力的である。又、2世代・3世代が一緒に暮らせる会社環境（地元企業の職場環境の充実）を整えるのも重要。 (2)イクメンを推奨。（①の意見は前向き対応要：男性の育児に参画する地域は人口が増加する。）又、会社の環境を変えるべく「イクボス（イクメンを理解している会社上司）」の必要性もアピール
			G	③ 放課後児童クラブの質の向上 若年世帯（若い夫婦）への相談支援（子育て相談のみならず家族相談夫婦相談等含め手厚く 高校生・大学生に向けたライフプラン教育の推進 二世帯住宅や実家の近居を可能にするための空き家対策（情報提供・あっせん・リフォーム補助等）
			H	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ・レクリエーション活動の推進、振興 ・心豊かな生涯学習の社会の形成 ・生きる力を育む教育の充実
			I	1 自然学習や実習研修等、教育のカリキュラム修正を検討。 2 多様な価値観を持つ人たちが暮らしやすいまちの創生。 3 管理社会の中では、子供は育たない。例えば、空き地、空き家の不動産業者管理看板を外し、子供や地域住民が自由に使用できる場所とする。雑草が生えれば、虫も鳥も人間も集まるはず。 4 まずは、男性の意識改革推進が重要。現在の社会構造では、女性は隙間でしか生きられない。施策に関しては、別途申しあげたい。 5 高松市らしさが考慮されている教育カリキュラムを作成する。内容は、上記1、2、3を参照。
			K	子どもの健全な発育と地域愛の育成の為、地域文化、自然、食に触れる機会を増やす。与えられた機会にならないよう思考力が備わった年齢では自主的に考え、選ばせることが大切。それ以前の年齢では、音楽や食、遊びなど本能に近い体験が適当では。目標設定を明確にし、手段の目的化を避けること。 男女共同参画の推進では、「安心安全な中食の提供」など現代生活に適合した食の面でのフォロー体制がほしい。 また、高い次元での人づくりができるよう優れた講師陣を他県や海外から招聘しての授業、講座はどうだろうか。
			L	③子供を産み育てやすいまちを創る (2) 男女共同参画の推進 男性中心社会からの脱却することが最優先。それに行政が出来ることは限られているとは考えるが、隼より始めではないが、市内部から率先した長時間労働の是正、男性の働き方を是正し、職場や社会における男性と女性の分担を明確にさせることが必要。
M	男性の働き方への意識を変える施策が必要（イクメン宣言よりもイクボス宣言の効果が大きい）			
N	子育て支援 <ul style="list-style-type: none"> ・サンポート地区に託児所を新設することで、働く女性の応援となる。 ・サンポートでのイベントを充実させる。（子どもと海の親和関係を促進） 			

戦略	基本目標	施策の基本的方向	委員氏名	「高松らしい施策」などについて、御意見を御記入ください。
「人口減少と社会連携に対応する戦略」 ・地域と連携し、健康やかで心豊かに暮らし続ける	④高齢者が健やかで心豊かに暮らせるまちを創る	(1)支え合い、自分らしく暮らせる福祉社会の形成 (2)健康で元気に暮らせる環境づくり	A	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車道の整備と電柱の地中化 ・レンタサイクルの地上整備 ・スポーツ（トライアスロン）⇒日常のランニング道 ・ランニングのできる緑道や歩道整備
			C	(1)団塊の世代が介護が必要となる今から、当事者だけでなく、介護者（＝ケアラー）の支援にも着目していくことが必要ではないでしょうか。現役世代の介護者が仕事を辞め、または晩婚化の影響で若者が就労につかず親の介護生活に入り、その親の年金と一緒に生活することになるため、介護保険をまともに使えずに共倒れになる、夫婦で老々介護に陥り、殺人事件に発展するというようなことも耳にします。ケアマネや民生委員、地域包括だけでは限界があります。介護者はいつまで介護生活が続くのかという気持ちや、社会に取り残されたという気持ち、介護の苦勞を誰もねぎらってくれない、自身の社会復帰や老後の不安など心の問題も多いと聞きます。介護者の居場所作り（集う場所、仲間を作り協力して介護にあたる、励ましあう仲間を作るなど）、介護保険等の情報提供、悩み相談のほか、 特に介護保険を使わず介護している方の情報が集まる仕組み作り を担うところも必要ではないでしょうか。
			D	(1)町内会・自治会等の地域内での 高齢者世帯の見守りシステムの構築 により、孤独死を予防し、急病発作への対応の遅れを防ぐ。 (2)コンパクトシティ構想の中で、高齢者の生活拠点での商店や電車・バスの公共交通機関の低段差、 バリアフリー化 。
			E	(1)支え合い、自分らしく暮らせる福祉社会の形成 【検討依頼】 ・郊外に大型小売店の出店が増加したことや人口減少に伴い、高齢者等が住む近隣から商店が撤退し、高齢者が徒歩で行ける範囲に商店が不足し、生活必需品の買物を行うことに困難を感じる買物弱者が増加している。こうした 買物弱者に、買物の機会を持続的に提供できるような事業に対する支援 が必要である。 【依頼理由】 ・郊外店の増加、人口減少、高齢化の進展に伴い、買物弱者が加速度的に増加しているため、買物弱者を救済する対策が必要である。買物弱者対策により高齢者を訪問することは、高齢者の状況を確認することができ、「高齢者見守り事業」と一体的に実施することにより、相乗効果も期待できる。
			F	(1)高齢者の居場所（いきいき生活が出来る場所）の提供を地域ぐるみで考え・提案する。 * 高齢者の知恵を生かせる地域活動 。 具体的には、他の地区でも進められている地方銀行が中心となっている CCRCプロジェクトの立ち上げ を提案したい。サ高住等の空きも目立ってきており、都会からの高齢者の受け入れ態勢等を充実させていく必要がある。
			G	④ 高齢者の居場所と子育ての居場所づくりを並行して実施 できるようコーディネーターの育成 補助金の交付 ラジオ体操事業を地域で強化 （香南町の取り組み事例（教育委員会））
			H	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が安心して暮らせる福祉社会の充実 ・消防と救急の強化充実 ・高齢者の居場所づくり、財政支援 ・ゴミの不法投棄のないまちづくり
			I	1 大量の団塊世代が後期高齢者に入っていき現在において、若者の支えは期待できないし、負担をかけられない状況の中で、高齢者達が老後を自分らしく生き、生活を持続させるために、行政支援には頼れない時代が到来した。各自が覚悟して老後に備えることが必要である。特に女性は、100歳を生きる時代になったので、 高齢者問題は女性問題という視点での施策 が必要とされる。 2 高齢者達が健康で元気に暮らすためには、各地域において集まれる広場、公園等が必要。老若男女が集まり、日常会話ができる 広場の設置運営 が重要。
			K	高齢者が元気に働く街、高齢者が楽しそうな街、として 意欲を生かせる仕事場と意欲を引き出せるイベントの提供 。また、高齢者になる前からの健康管理が大切なことから、 スポーツイベントや健康管理講座 の機会を増やし、市民全体で明るく楽しいイメージを共有して進められるキャンペーン型の方策もありかと。
L	④高齢者が健やかで心豊かに暮らせるまちを創る (1) 支えあい、自分らしく暮らせる福祉社会の形成 人と人のつながりが保持できるような、 地域での集まりごとを行政主導で確立 する。 たとえば、自治会単位ごとに 高齢者を月一度集めて地域での行事に強制的に参加してもら うとか、家庭における介護の悩みを伝えるなど、議論し 交流を図っていく場 が必要。現行の各種団体（自治会組織・高齢者組織）のやり方では限界が見えていることから、改めて、行政が中心になりつつ、地域でのコミュニティ再生につなげるために自治会ごとにテーマなどを与え、街づくりに参画してもらう。			

戦略	基本目標	施策の基本的方向	委員氏名	「高松らしい施策」などについて、御意見を御記入ください。
「人口地域減少と社会連携に対応する戦略」 豊かに暮らし続ける	⑤持続可能なまちを創る	(1)安全で安心して暮らせる社会環境の形成 (2)豊かな暮らしを支える生活環境の向上 (3)コンパクトで魅力ある都市空間の形成 (4)快適で人にやさしい都市交通の形成 (5)拠点性を発揮できる都市機能の充実 (6)地域コミュニティの自立・活性化 (7)連携の推進 (8)健全で信頼される行財政運営の確立	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ ジェントリフィケーション（都市の居住地域を再開発して高級化する） ・ 中心市街地の うどん屋特区 …駅前に魅力的なうどん屋を誘致 ・ 空家不動産、空き地の緑化 人口減少を前提とすると、空家再生やリノベーションだけでなく、空き地の利用も想定すべきと考えます。 →ドイツのクライン・ガルテン（滞在型市民農園）農地借地制度や都市緑地の整備などをこの対策の中に入れてはいかがでしょうか。
			C	(2)空き家の事情として、一方では単純に「身寄りがいないから空き家になった」ということだけではないと思います。親の代から 相続問題も絡み名義変更がされておらず空き家活用となった際に その後の権利問題も絡んでくるために、「第三者が気持ちよく改装できない」、「貸家としての契約ができない」、「転売できない」などの問題が発生すること考えられます。そのため、それを 解決する仕組み作り も必要だと思います。空き家を活用する以前に法整備が必要な物件も多いのではないのでしょうか。「兄弟も既に亡く、甥、姪の代になっており手続きが複雑の上、お金がないので名義変更できない。」というような方には助成事業や相談窓口として専門家への橋渡しをするようなところも必要だと考えます。
			E	(5)拠点性を発揮できる都市機能の充実 【意見】 ・ 中心市街地活性化推進事業 上記事業は経済産業省所掌の事業と関係する事業であり、戦略に盛り込まれることは当省の施策と合致している。
			F	(1)①の意見の 「データの見える化」 を全国的にどの程度安全なのかひと目で分かるようなものが必要。 (4) 自転車文化の推進と、公共交通機関の充実を組み合わせた仕組みづくり に発展させる。
			G	⑤ 公共交通の充実
			H	<ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニティを軸としたまちづくり ・ 交通安全対策、マナーアップの指導充実 ・ 芸術活動の推進 ・ 自転車専用道路の充実 ・ コミュニティバスの運営促進 ・ 11号線の高架橋の早期実現（琴電） ・ 参画と協働のまちづくり ・ 協働提案事業の充実
			I	1 コンパクトシティ間を繋ぐ公共交通の整備 が必要。高松市は北が海のため、北への発展は望めない。今後の発展を考えれば、行政中心地を香川県の中心部当たり、例えば、仏生山あたりに移転させる。そして、 公共交通、道路は渦巻き状に配置するような都市計画 を御検討いただきたい。都市計画に関しては、要望が多いので、改めて申し上げたい。 2 安全、安心、豊かな暮らしは、全ての人々の求めるものである。しかし、人口減少が避けられない現在、行政への期待は薄い。水面下における外国人労働者の増加も含めて既に高松の経済が稼働しない状況になりつつある。今後の高松市経済を活性化させるには、 女性の就労者を増やし、就労環境を整えていく ことが重要。また、それにも増して、 男性の生活自立力推進 が最重要課題である。
			K	若者発信！「新しい田舎のカタチ」P J・・・都市部と田舎部のよいところを最大限に生かす新しい暮らし方を 若者目線でストーリーにして作り上げる 。持続可能なまちの核になるものは、 食 （安心安全な食べ物、環境に配慮した農業）、 環境 （エネルギー、ゴミ）。それに加えて高松にしかない オリジナルな価値を創出し、求心力を財源につなげる 。たとえば②であげた食医学分野など。
			L	⑤持続可能なまちを創る (4)コンパクトで魅力ある都市空間の形成 コンパクトシティづくりの過程で、郊外とりわけ山間部などの田舎に居住する高齢者をどのように考えるのか？ 都市交通の形成とそうした高齢者との存在をどのようにミックスさせるのか が、大きな課題のように思います。
			N	公共交通機関 ・ 高松市内に LRT（次世代型路面電車）を導入 する。

たかまつ創生総合戦略（仮称）についての御意見等記載用紙

委員氏名

Blank area for writing the name of the committee member.

御意見等がある場合、欠席時はあらかじめ、又は会議開催後1週間以内に御提出ください。

送付先 〒760-8571 高松市番町一丁目8番15号
高松市役所・政策課（審議会・懇談会担当）
TEL 839-2135 FAX 839-2125
メールアドレス seisaku@city.takamatsu.lg.jp

第4回たかまつ創生総合戦略懇談会の流れ（予定）

日時：平成27年9月25日（金） 午後6時30分～

場所：市役所13階 大会議室

1 開会

2 議題

(1) たかまつ創生総合戦略（仮称）の検討について（60分）

- ・ 事務局説明（10分）
- ・ 意見交換

(2) その他

3 閉会

※ 第4回たかまつ創生総合戦略懇談会終了後、第2回高松市総合計画審議会を開催します。

たかまつ創生総合戦略（仮称）素案 事業案一覧表

戦略	基本目標	目標	施策の基本的方向	具体的な施策	重要業績評価指標（KPI）				事業名	事業内容
					指標名	指標の説明	現状値	目標値（H31）		
人口減少を抑制する戦略	創造性豊かで人間中心のまちを創る	平成31年度に本市の主な観光施設等利用者数を〇千人程度（H26本市の主な観光施設等利用者数6,396千人）	地域を支える産業の振興と経済の活性化	中央商店街の活性化	中央商店街の空き店舗率（%）	中央商店街における店舗のうち、空き店舗が占める割合	17.2	中央商店街にぎわい促進事業	ブリーゼスクエアを活用した商店街活性化事業や、商店街共同施設の新設・改修事業や空き店舗活用事業に対する助成を行うことにより、中央商店街のにぎわいを促進します。	
				中小企業等の育成と振興	創業者数（人）	高松市創業支援事業計画に掲載された各連携機関から支援を受け創業した事業数	—	中小企業人材確保・就業機会拡大事業	中小企業の労働力及び人材の確保を促し、経営の安定につながるため、関係機関と連携して、合同求人説明会を開催します。	
				企業誘致・交流の推進	企業誘致助成制度指定件数（件）	企業誘致助成制度の指定件数（H21年度以降の累計指定件数）	30	企業誘致・起業支援による地域産業活性化促進事業	企業誘致専門員の配置や、企業誘致優遇制度の活用により、企業誘致・企業支援活動を促進します。また、創造支援センターの活用や、高松商工会議所・金融機関等の関係団体との効果的な連携を通して、ワンストップで新規事業者等への支援を行います。	
				生産体制の整備	認定農業者数（経営体）	本市が認定した認定農業者数	311	人・農地プラン推進事業（青年就農給付金事業）	新規就農者の確保及び経営開始直後の経営安定を図るため、国の青年就農給付金事業（経営開始型）を実施します。	
				生鮮食料品等流通の強化	卸売市場の取扱金額（億円）	青果、水産物及び花きの取扱金額	323	卸売市場活性化推進事業	卸売市場と市場流通というシステムを活用して活性化し、市内外に向けた消費拡大を通じた農林水産業や生鮮食料品等流通という地域産業の競争力を強化するために実施します。	
				特産品の育成・振興	販路開拓事業等来場者数（人）	販路開拓事業等の来場者数	17,600	伝統的ものづくり支援事業	高松市伝統的ものづくり振興条例に基づき、人づくりの推進や普及啓発、販路拡大等の伝統的ものづくり支援事業を実施します。	
			文化芸術の振興	文化芸術活動の推進	アウトリーチ事業の参加者数（人）	地域に出向いての文化芸術活動（アウトリーチ事業）の参加者数	67,757	アート・シティ・高松プロモーション事業	アート・シティ高松を広く発信するため、アートディレクター推進事業、アーティスト・イン・レジデンス事業、0オからのコンサート事業、まちなかパフォーマンス事業等を実施します。	
				国際的な発信力を持つイベントの推進	瀬戸内国際芸術祭の本市会場への年間来場者数（人）	瀬戸内国際芸術祭の本市会場に年間来場した人数	1,046,404（H25）	瀬戸内国際芸術祭推進事業 高松国際ピアノコンクール推進事業	現代アートの作家や建築家と協働して、国際的な芸術祭と位置つけた瀬戸内国際芸術祭について、3年毎の開催を目指します。 高松から世界レベルの音楽を発信するとともに、地域の活性化、音楽芸術の振興、国際的な文化交流の推進などを目的として、4年に一度開催されています。（日本で3番目に創設された国際的なピアノコンクール）	
			スポーツの振興	市民スポーツ活動の推進	社会体育施設利用者数（人）	社会体育施設の延べ利用者数	1,685,437	市民スポーツフェスティバル開催事業	本市の中核的スポーツ団体で構成する実行委員会を設置し、小学校区対抗競技12種目、市内6ブロック対抗の水泳競技大会、トリムの祭典、高松ファミリー&クォーターマラソン in A J Iを実施します。	
								市民スポーツ活動推進事業	生涯スポーツの振興を図るため、地区体育協会や高松市体つくり市民会議等と連携、支援する中で、各種事業を展開するとともに、高松市体育協会等への支援を通じて、競技力の向上に取り組んでいます。また、青少年のスポーツ振興を図るため、スポーツ少年団の認定員養成講習会などの事業への支援を行っています。また、本市が委嘱しているスポーツ推進委員は、スポーツに関する指導・助言やスポーツの行事の企画運営、行政との連絡調整などの活動を行っています。	
				スポーツ施設の整備	屋島陸上競技場利用者数（人）	屋島陸上競技場利用者数 現状値は旧屋島陸上競技場 閉場前3年平均	62,827	屋島陸上競技場再整備事業 南部地域スポーツ施設（仮称）整備事業 ヨット競技場再整備事業	スポーツ振興等の拠点施設として活用し、交流人口の拡大を図ることで、スポーツを資源とした観光まちづくりに取り組みます。 市民スポーツの振興を図るため、合併協議に基づく、香川町、香南町のまちづくりプラン（建設計画）における重点取組事項として位置づけられている「南部地域における特色あるスポーツ施設の整備」について、市域全体のスポーツ施設のバランスと効果的な連携を念頭に整備します。 マリンスポーツを通じた市民の健康増進、利用者の利便性の向上、次代を担うヨット競技選手の育成・強化等を図るため、老朽化した施設を再整備します。	
			トップスポーツの振興	トップスポーツ試合観戦者数（人）	トップスポーツ4チームのホームゲーム観戦者数	124,000	地域密着型トップスポーツチーム支援事業	本市から全国への情報発信を始め、市民のふるさと意識の高揚や、スポーツ振興を通じた市民の健康増進等を図るため、地域密着型トップスポーツチーム（複数の都道府県にまたがって活動するリーグに所属し、地域に拠点を置くプロもしくはこれに類したスポーツチーム）を支援します。		

たかまつ創生総合戦略（仮称）素案 事業案一覧表

戦略	基本目標	目標	施策の基本的方向	具体的な施策	重要業績評価指標（KPI）				事業名	事業内容
					指標名	指標の説明	現状値	目標値（H31）		
			訪れたい観光・MICEの振興	観光資源の活用と創出	観光施設等利用者数（千人）	高松市内の主な観光施設等利用者数	6,396	高松城跡（玉藻公園）を活かした観光振興事業	高松城跡と本市特産品の魅力を発信するとともに、玉藻公園の文化事業等との相乗効果を図ることで、観光客の誘客促進に取り組みます。	
								源平屋島地域観光振興事業	瀬戸内海国立公園有数の景勝地であり、源平合戦の史跡を有する源平屋島地域の自然・歴史・文化・産業等の資源を生かした観光振興を図るため、源平屋島地域運営協議会が実施する事業を支援します。	
								観光振興計画推進事業	観光に関連する事業者・団体等が行っている観光振興の取組を情報共有し連携や協働を行うため、「高松観光まちづくりネットワーク推進委員会」と連携して、研修事業や観光課題解決に向けた事業を行います。	
								屋島活性化推進事業	屋島を高松市のシンボルとして再生し、本市の観光を振興させ、交流人口の増加や産業振興につなげます。	
								温泉を生かした塩江地域の観光振興事業	温泉を生かした塩江地域の観光振興を図るため、温泉水の供給体制に関する調査を実施し、その結果を踏まえ、必要に応じて新たな源泉を確保するとともに、塩江温泉郷活性化基本構想（仮称）等の策定に取り組みます。	
				観光情報の効果的発信	まつり・イベント入込み客数（千人）	観光イベント振興事業補助対象事業入込客数	1,011	観光情報発信・受入態勢整備推進事業	本市の観光ホームページ「高松旅ネット」や海外版インターネット広告「アート・シティ高松」を発信するほか、団体旅行において観光客誘致を積極的に推進する目的で、旅行会社に対してインセンティブ施策を実施します。	
								海外誘客促進事業	中国・韓国・台湾からの旅行者の集客を高めるため、本市の観光プロモーションを行うとともに、今後の観光客増加が見込まれる東アジアや欧州について、市場調査やキャンペーンを実施します。（訪日観光客誘致事業から名称変更）	
								国内誘客促進事業	創造都市高松の知名度を高め、来訪者の増加を図るため、旅行者・事業者への誘致活動や、首都圏・関西圏におけるキャンペーン活動、サービスエリアにおける広告掲示など、国内観光客の誘致を積極的に行います。	
								観光客誘致宣伝事業	観光パンフレットの作成や県内外への発送や高速道路出口に塩江温泉郷の案内看板を設置するなど、観光客を誘致するため、本市をPRします。	
								高松観光プロモーション事業	本市の観光地としてのイメージアップや集客力を高めることを目的に、民間の経済活動を原動力とした独創的な事業を公募し、公開プレゼンテーションを経て認定するとともに、その事業を支援します。	
MICE（マイス）による誘致促進	コンベンション数（件）	1年間に高松エリアで開催されたコンベンション数	225	観光コンベンション振興推進事業	（公財）高松観光コンベンション・ビューローや国際観光振興機構に、年間の運営補助や負担金を拠出し、本市の経済活性化はもとより、国際会議観光都市・高松のイメージアップに取り組みます。					
若者から選ばれるまちを創る	平成31年度に1年間の転入と転出の差（社会増減）を〇人程度増加（平成26年社会増減289人）	大学等高等教育の充実	大学等の魅力向上への取組	包括協定を結んでいる大学等の学生・生徒の充足率（%）	包括協定を結んでいる大学等の定員に対する学生・生徒数の割合	91.0	大学等との連携事業	高等学校卒業後の人材の流出を抑制し、本市への定着を図るため、大学等の魅力向上に取り組みます。		
				移住・交流の促進	選ばれる地域づくりの推進	高松市移住ナビ（ホームページ）閲覧件数（件）	高松市移住ナビのホームページ閲覧件数	9,629	移住・交流促進事業	人口減少、少子超高齢社会に対応するため、県とも連携しながら、本市のイメージアップや地域の活性化に資する移住・交流促進策に取組みます。
				交流・定住人口の拡大	各島への年間来島者数（人/年）	女木・男木・大島への来島者数 本市調べ（航路事業者及び大島青松園から）	189,667	大島振興方策推進事業	大島におけるこれまでのハンセン病療養所としての歴史等を後世に伝えていくとともに、瀬戸内国際芸術祭を契機として育まれた、芸術関係者を始めとする島外の人々との交流を更に活性化するなど、大島の振興を図るため、「大島振興方策」に掲げる具体的施策・事業（4.2事業）を計画的に実施します。	
				就業環境の充実	就業支援の促進	就活応援・適職相談事業来場者数（人）	就活応援・適職相談事業への来場者数	384	離島航路振興事業	女木島及び男木島に観光客を呼び込み、定着させ、ひいては、航路の活性化を図るため、世界に向けた瀬戸内の魅力の発信、交流人口の増加、地域振興・活性化に向けた取組などを行います。
							就業支援推進事業	就業支援の推進及び労働者の就業環境の向上に資するため、就活応援・適職相談事業の開催や、労働関係情報の発信等を行います。		

たかまつ創生総合戦略（仮称）素案 事業案一覧表

戦略	基本目標	目標	施策の基本的方向	具体的な施策	重要業績評価指標（KPI）				事業名	事業内容	
					指標名	指標の説明	現状値	目標値（H31）			
	子どもを生き育てやすいまちを創る	平成42年（2030年）までに合計特殊出生率を1.86程度（平成26年合計特殊出生率1.62）	子どもが健やかに生まれ育つ環境の充実	子どもの心身の健やかな育ちへの支援	1歳6か月児健康診査受診率（%）	1歳6か月児健康診査対象者のうち受診した割合	91.8		こんにちは赤ちゃん事業	生後間もない乳児がいる家庭を助産師や保健師が家庭訪問し、育児に対する不安の解消や育児支援を行います。	
										不妊治療費助成事業	特定不妊治療の経済的な負担を軽減するため、医療保険が適用されない不妊治療に要する費用の一部を助成します。
										こども未来館（仮称）整備事業	平成23年度末に廃止した市民文化センター本館の跡地に、子どものための施策・事業を実施するための「こども未来館（仮称）」を整備します。事業の連携等を考慮して「高松市平和記念館（仮称）」及び「高松市男女共同参画センター」を同一建物内に整備します。
				健やかな成長を促す学びへの支援	認定こども園数（施設数）	教育・保育施設のうち認定こども園の施設数	1		保育所・幼稚園への芸術士派遣事業	絵画や造形などの専門家である芸術士を保育所・こども園・幼稚園へ派遣し、それぞれの芸術分野を生かしながら、子どもが持っている感性や創造力を伸ばしていけるよう導きます。	
										私立保育所・幼稚園施設整備補助事業	待機児童の解消を図るため、幼稚園等から認定こども園への移行や私立保育所の創設等の施設整備に対する支援を行うほか、保育環境の改善等を図るため、私立保育所が実施する大規模修繕等に対して支援します。
				配慮を要する子どもと保護者への支援	自立支援プログラム策定者の就職率（%）	母子・父子自立支援プログラム策定者のうち就職に至った割合	78.3		要保護児童対策事業	関係機関等と連携し、児童虐待を始めとする要保護児童の早期発見と保護と適切な対応に努め、その家族を支援するとともに、児童虐待防止啓発活動を行います。	
									養育支援訪問事業	子育てに支援が必要でありながら、自ら支援を求めることが困難な家庭に対し、状況に応じて助産師や保健師、保育士等の養育支援員が家庭を訪問し、支援を行います。	
									ひとり親家庭子育て支援事業	ひとり親家庭の子育ての負担軽減を図るため、たかまつファミリー・サポート・センターが実施する援助活動の利用料の一部を補助します。	
									母子家庭等就業・自立支援事業	母子家庭等の自立支援のため、就職支援セミナーや就業に結びつく可能性の高い技術・資格を有するための就業講習会等を実施します。	
				地域における子育て支援	子育て支援拠点施設設置割合（%）	教育・保育提供区域のうち、子育て支援拠点施設ができていない割合	100		地域子育て支援拠点事業	地域において乳幼児および保護者が気軽に集い、子育てについての相談、情報の提供、助言その他の援助を行うなど、相互の交流を行う場所を開設しています。	
									子育て支援対策推進事業	子育て支援総合情報発信事業、地域組織活動育成事業、こども未来ネットワーク会議、すくすく子育てプラン進捗管理、子育て集会所“夢てらす”などの、地域における各子育て事業を支援します。	
									子育て相談事業	子育てに関する多種多様な質問や相談に専門の相談員（保育士）が対応し、適切な窓口や支援機関、子育てサービスを紹介します。	
子ども医療費助成事業	通院については、小学校卒業（0歳から12歳年度末）まで、入院については、中学校卒業（0歳から15歳年度末）までの子どもに対して、保険診療に係る自己負担分を助成します。										
子育てと仕事の両立支援	保育施設等待機児童数（人）	4月1日現在での保育施設等待機児童数	129		病児・病後児保育事業	児童が病気回復過程にあるが、まだ集団保育ができず、保護者も仕事を休めない場合に、医療機関等に付設の保育室で一時的に預かることにより、子育てと仕事の両立ができる環境を整備します。					
					放課後子ども教室事業	放課後等における児童の安全で安心な居場所づくりを図るため、地域の協力を得ながら、各校区に、コーディネーターなどを配置し、学び、スポーツ、文化活動、地域の方々との交流活動等を行います。					
					放課後児童クラブ事業	保護者が労働等により昼間家庭に居ない、小学校に就学している児童に対して、授業の終了後等に、小学校の余裕教室等を利用して適切な遊び及び生活の場を与えて、その健全な育成を図ります。					
					ファミリー・サポート・センター事業	仕事と育児の両立を支援するため、地域において育児の援助を受けたい人を行いたい人からなる会員組織として、ファミリー・サポート・センターを設置し、育児に関する相互援助活動などを行います。					

たかまつ創生総合戦略（仮称）素案 事業案一覧表

戦 略	基本目標	目標	施策の基本的方向	具体的な施策	重要業績評価指標（KPI）				事業名	事業内容
					指標名	指標の説明	現状値	目標値 (H31)		
									私立保育所運営支援事業	私立保育所において、保育を必要とする乳幼児に対して、心身ともに健やかに保育を行うために要する費用を支援します。
									認可外保育施設支援事業	認可外保育施設に入所している児童の福祉向上や保護者の経済的負担の軽減を図るため、認可外保育施設に対し補助するほか、施設に入所している第3子以降の児童の保護者に対して補助するなどの支援を実施します。
									私立認定こども園等施設型給付事業	私立認定こども園、施設型給付を受ける私立幼稚園及び小規模保育事業等を実施する事業者が、教育・保育などの実施に要する費用を負担します。
			男女共同参画の推進	男女共同参画の意識づくり	審議会等における女性委員の割合（%）	本市審議会等における女性委員の割合	38.0		男女共同参画社会推進事業	男女共同参画都市宣言（平成9年12月）の趣旨を踏まえ、関係機関や関係団体と連携・協力し、男女共同参画社会の実現に向けた各種行事等を実施します。
		社会を生き抜く力を育む教育の充実	確かな学力の育成	学校評価平均評価得点（確かな学力の育成に関すること）（点）	各校の評価得点（最高値4点、最低値1点）の平均点		3.16		英語教育推進事業	各中学校に、外国語指導助手（ALT）を配置します。また、小学1年生から実施する英語教育において、学級担任を補助する英語指導補助員を全小学校に配置します。さらに、夏季休業中に高学年児童の希望者を対象に、1日英語生活体験教室を開催します。
									理科教育支援員配置事業	小学校の指定校に、主に5、6学年の授業を支援対象として、理科の実験等を支援する支援員を配置し、理科授業の充実を図ります。
									菊池寛及びその作品から学ぶ「寛学」事業	菊池寛の生い立ち及び作品を掲載した文学作品集を作成し、各小中学校への配布をとおして、菊池寛及びその作品に親しむ学習を行います。また、道徳や特別活動等の時間に、菊池寛を通して、自らの生き方を考える学習を行ったり、高い志を育む学習を行います。さらに、小学校において、菊池寛の作品の朗読劇を出前講座として開催します。
			豊かな心と体を育てる教育の推進	学校評価平均評価得点（体力・運動能力の育成に関すること）（点）	各校の評価得点（最高値4点、最低値1点）の平均点		—		少人数学級推進事業	小学校5・6年において少人数学級編成を行い、個に応じた分ける授業を展開し基礎学力の定着を図ります。また、学習面だけでなく生活面においても、個に応じた細やかな生徒指導を行い、児童の安定した学校生活の推進を図ります。
									小中一貫・連携教育推進事業	高松第一学園における小中一貫教育を充実させるとともに、その成果を踏まえた小中連携教育を他の小・中学校で推進します。小中連携教育推進校を指定し、中1ギャップの解消等を図ります。また、中学1年時の学習面でのつまづきの解消を目的として、指定校5校に「中1スタートサポーター」を配置します。

たかまつ創生総合戦略（仮称）素案 事業案一覧表

戦略	基本目標	目標	施策の基本的方向	具体的な施策	重要業績評価指標（KPI）				事業名	事業内容				
					指標名	指標の説明	現状値	目標値（H31）						
人口減衰社会に対応する戦略	高齢者が健やかで心豊かに暮らせるまちを創る	平成31年度に自立高齢者を〇%程度（平成26年自立高齢者率78.9%）	支え合い、自分らしく暮らせる福祉社会の形成	地域包括ケアシステムの構築	要介護者の在宅比率（%）	在宅（介護保険3施設、認知症対応型共同生活介護、介護専用型特定施設入所者を除く）での要介護認定者の割合	78.7		医療介護連携事業	医療と介護をともに必要とする高齢者が、在宅での暮らしを続けることができるよう、医療と介護を切れ目なく一体的に提供することができる体制を構築するため、医療機関と介護サービス事業者との連携を推進します。				
									高齢者居場所づくり事業	高齢者が心身機能の衰えに伴い閉じこもりがちになる事を防ぐため、高齢者だけでなく子どもたちを交えた世代間交流の場などの居場所に対し助成金を交付することにより、高齢者の介護予防や健康づくりを推進します。				
									高齢者見守り事業	高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、ゆるやかな見守りから、支援が必要な高齢者の見守り、さらに特に定期的な支援が必要な高齢者への見守りと、三層構造による見守り等を推進します。				
									徘徊高齢者家族等支援事業	顔写真付きの電子メール配信システムを含む、徘徊高齢者保護ネットワークを継続して運用することで、徘徊高齢者の早期発見・早期保護に努め、認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりを推進します。				
									生活支援・介護予防サービス提供体制構築事業	支援が必要な高齢者のニーズに対応するため、生活支援コーディネータの配置、コーディネーターとサービス提供主体が情報共有・連携強化する協議体の設置を通じて、多様な主体によるサービスの提供体制を構築します。				
									認知症ケア推進事業	認知症の高齢者やその家族を支援する「認知症地域支援推進員」の配置や、適切な医療・介護サービスを利用するための「認知症ケアパス」の普及のほか、「認知症初期集中支援チーム」の設置・運営等を行います。				
									地域ケア会議推進事業	高齢者に関する地域課題や個別ケースについて、医師や介護事業者等の多職種と、住民、行政職員が検討を重ね、課題解決に向けて関係者間の調整、ネットワーク化を推進し、高齢者の支援体制の充実を図ります。				
							ユニバーサルデザインの普及・啓発	小学生用パンフレットを配布数（人）	小学校三年生にパンフレットを配布した累計数	9,500		ユニバーサルデザイン推進事業	高齢者に関する地域課題や個別ケースについて、医師や介護事業者等にユニバーサルデザインの考え方を広め、市全体で更なるユニバーサルデザインのまちづくりを推進します。	
							健康で元気に暮らせる環境づくり	生活習慣病（がん・循環器疾患・糖尿病等）対策の推進	がん検診受診率（%）	本市が行うがん検診を受診した市民の割合	24.9		がん対策推進事業	がんの早期発見・早期治療を図るため、胃・大腸・肺・子宮頸・乳・前立腺がん検診を実施するほか、がん予防の普及啓発と、市民が受診しやすい環境を整備します。
							救急医療体制の確保	夜間急病診療所利用者に対する満足度調査「満足」回答率（%）	夜間急病診療所利用者を実施したアンケート調査で「満足」と回答があった割合	63.8		夜間急病診療所運営事業	毎日19:30～23:30まで診療を行う夜間急病診療所を、指定管理者制度により運営します。 診療科（内科、小児科、耳鼻咽喉科（木のみ）、眼科（土のみ））	
持続可能なまちを創る	平成31年度に用途地域内の人口比率〇%程度（平成26年用途地域内の人口比率64.3%）	安全で安心して暮らせる社会環境の形成	救急活動の推進	救命率（%）	心肺機能停止傷病者が社会復帰した割合（暦年）	5.1		救急艇等管理事業	島しょ部における救急患者を、安全かつ迅速に海上搬送を行うために、救急艇の搬送体制を継続するとともに、適切な維持管理を行います。					
			災害発生時の拠点施設及び情報伝達手段の整備	危機管理センター（仮称）等施設整備進捗率	危機管理センター（仮称）等の施設整備に係る進捗率	30		危機管理センター（仮称）等整備事業	大規模災害等発生時の的確な初動体制を確保するとともに、市民に適切な情報を提供し、震災などに迅速かつ総合的に対応する危機管理体制を構築するため、常設の災害対策本部機能を始め、同本部と緊密な連携が必要な消防局機能及び上下水道局機能を、庁舎西側の公用車駐車場および駐輪場用地に一体整備します。					
			市民及び地域の防災意識と防災力の向上	地域における防災訓練の実施率（%）	防災訓練を実施したことがある地域の割合	47.7		自主防災組織等育成事業	全てのコミュニティに結成された包括的な自主防災組織が、災害時に機能するように実践的な防災訓練を実施できるように支援することで、組織の育成と強化を図ります。					
			豊かな暮らしを支える生活環境の向上	空家対策の推進	老朽危険空家除去支援件数（件）	老朽危険空家除去支援制度利用により除去した空家数	0		空家等対策事業	市民が安全で安心して暮らせる良好な住環境の整備を図るため、空家等の除去に関する支援や空家の利活用の促進するなど、総合かつ計画的な空家対策を実施します。				
				公園・緑地の整備	市民1人当たり都市公園等の面積（㎡/人）	市民1人当たりの都市公園等の面積	8.14		身近な公園整備事業	緑の基本計画に掲げる「1小学校区1公園」の整備を目標に、公園がない小学校区を優先的に整備するとともに、公園が少ない小学校区においても、市有地を活用できる場合は、地域の要望を受け、公園整備を行います。				
				コンパクトで魅力ある都市空間の形成	適正な土地利用の推進	用途地域内の人口比率（%）	用途地域内の人口の割合	64.3		都市計画制度運用事業	社会情勢やまちづくりの方向性に対応し、コンパクトで持続可能な集約型の都市構造の構築に向け、必要な都市計画の見直しを行い、適正な土地利用の誘導を図ります。			
		集約拠点における都市機能集積	中心市街地の居住人口の割合（%）	中心市街地活性化エリア内の人口の割合	4.8		多核連携型コンパクト・エコシティ推進事業	地域の特性にふさわしい一定規模以上の商業・医療・産業環境や行政サービス機能を確保します。						

たかまつ創生総合戦略（仮称）素案 事業案一覧表

戦 略	基本目標	目標	施策の基本的方向	具体的な施策	重要業績評価指標（KPI）				事業名	事業内容
					指標名	指標の説明	現状値	目標値 (H31)		
			快適で人にやさしい都市交通の形成	人と環境にやさしい、持続可能な公共交通サービスの導入	公共交通機関利用率 (%)	本市の人口のうち、公共交通機関利用者数の割合※1公共交通機関利用者数とは、電車及びバスの1日当たりの利用者数である。	13.7		公共交通維持改善事業	公共交通の利便性の向上を図るため、鉄道設備の整備に対する支援、パークアンドラウンド用駐車場の管理、生活バス路線の維持充実、離島航路に対する補助など、良好な交通環境を確保します。
				快適な自転車利用のための環境整備	自転車道等整備済延長 (累積) (km)	自転車ネットワーク整備方針に位置付けられた路線の整備延長	4.2		公共交通利用促進事業	多様な交通手段が有機的に連携した、快適で人にやさしい都市交通の形成を図るため、公共交通の利用促進に向けた各種施策・事業の推進をするとともに、市民啓発活動等の積極的に展開します。
			拠点性を発揮できる都市機能の充実	高松空港の利用促進	高松空港の利用者数 (万人)	高松空港を離発着する定期航空路線の年間利用者数	173		航空路線網拡大促進事業	高松空港の更なる振興を図るため、従来からの現就航路線に対する使用促進策の実施に加え、国内線に係る路線復活や、国際路線の新規開設に向けた取組などを行います。
				広域鉄道ネットワークの整備促進	市内J R駅の乗降客数 (千人)	高松市内にあるJ R駅での年間乗降客数	6,946		広域輸送交通機関整備促進事業	「四国の鉄道高速化連絡会」や県内全市町で組織する「香川県J R四国線複線電化・新幹線導入期成同盟会」を通じ、国やJ Rに対し、四国の高速鉄道（新幹線等）の早期導入の要望活動を行います。
				タイムリーな情報発信による回遊促進	中央商店街の歩行者通行量 (人)	中央商店街の歩行者通行量 (休日、15地点)	118,731		地域公共交通再編実施事業	既存ストックを有効に活用し、新駅整備事業、複線化事業、バス路線網の再編等を推進し、持続可能な公共交通のネットワークの構築を目指します。
				中心市街地活性化推進事業	「にぎわい・回遊性・豊かな暮らしのあるまちを目指して」をコンセプトに、中心市街地の活性化を図ります。					
			地域コミュニティの自立・活性化	コミュニティ活動の支援	コミュニティプランの見直し率 (%)	コミュニティプランを見直したコミュニティの割合	54.5		地域まちづくり交付金事業	地域コミュニティ協議会が主体的に行うまちづくり活動を支援し、住民自治及び市民と行政との協働による地域自らのまちづくりを推進するため、地域コミュニティ協議会に対して、地域の各種事業・団体に交付される補助金を一元化して交付します。
			連携の推進	連携中枢都市圏における連携事業の充実	連携中枢都市圏での生活関連機能サービス等連携事業数 (事業)	圏域における生活関連機能サービスの向上に関する連携事業数	45		連携中枢都市圏推進事業	圏域における人口流出の抑制、維持に貢献できるよう、本市が中心となって、圏域の経済を活性化するとともに、住民の生活環境の利便性を維持向上させる連携事業の実施に努めます。
			健全で信頼される行財政運営の確立	効率的な行政運営の推進	各種方針・計画等の進捗率 (%)	施設の再編整備についての各種方針・計画等の進捗率	45		ファシリティマネジメント推進事業	本市の公共施設・公用施設について、施設の保有総量を削減するなど、施設に係る経費の削減に早急に取り組む必要があります。また、公共施設サービスの維持を図るため、ファシリティマネジメントの考え方を取り入れ、経営的な観点から、施設の用途転用や共用化による有効活用の促進や、配置の見直し、複合化、未利用スペースの貸出など、施設の運営方法を見直す必要があります。

会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	第3回たかまつ創生総合戦略懇談会
日 時	平成27年9月7日(月) 18時30分～19時35分
開催場所	高松市役所 13階 大会議室
議 題	(1) たかまつ創生総合戦略(仮称)の検討について (2) その他
公開の区分	☒ 公開 ☐ 一部公開 ☐ 非公開
上記理由	
出席委員 (22名)	佃会長、野田副会長、上田委員、上原委員、国見委員、 桑井委員、桑村委員、坂口委員、佐野委員、白薊委員、 鈴木委員、高嶋委員、竹内委員、徳倉委員、中橋委員、 西岡委員、原委員、藤本委員、古川委員、眞鍋委員、柳 委員、頼富委員
傍 聴 者	2人 (定員10人)
担当課及び連絡先	政策課 839-2135

会議の経過及び結果

(1) たかまつ創生総合戦略(仮称)の検討について

事務局から、取りまとめた人口ビジョンと総合戦略の素案について説明し、委員から意見をもらう。

(委員)

たかまつ創生総合戦略の「就業環境の充実」というところが、切って貼ってきたというような感じを受ける。「ワーク・ライフ・バランスの考え方に基づいた職場環境づくりに取り組みます」とあるが、これだと取り組まないまま終わってしまう。

管理職の風土、意思決定権者のところを変えていかなければ、組織は変わらない。働き方を変えることは少子化対策にそのまま直結しているということが国の資料からも出てきている。

ワーク・ライフ・バランスをどのように推進していくのか、もう2歩ほど踏み込んでいく必要がある。管理職や経営者の意識を変えていく作業を市が中心となって取り組んでいくことで、始めて環境が全体的に変わるのではないかと思う。

(副会長)

女性は、就職や結婚で、外から入ってきたり、出て行ったり、移動が多いのではないかと思うが、女性が住みやすく、子どもを産み育てていく環境整備が必要である。女性の定住や雇用についての数値データはどのようなになっているか、お聞きしたい。

(事務局)

人口ビジョンでは、年齢階級別・男女別の人口移動の状況を整理した資料を掲載しているが、特に女性に焦点を当てた数値はこの資料上では整理できていない。

会議の経過及び結果

(副会長)

女性が住みやすくなるまちづくりという項目も必要ではないかと思う。

(委員)

事前に意見を出したが、この資料の中で、どこに反映されているのか、或いは市ではその意見を採用できないということか、その辺りの見解をお聞きしたい。

また、男女共同参画の部分についても意見を出したが、結局、男中心社会をどう克服していくか、長時間労働の問題も含め、口だけの施策になってしまっているといけない。

私ども労働組合の中でもいろんな意見交換がなされており、ぜひ市においてもその辺りについて具体的な施策を展開していく必要があると思う。

(事務局)

資料6には懇談会委員の意見から想定される事業を整理している。

これらの事業の中からどれを総合戦略に反映していくかについては、今、検討中であり、ぜひとも、これはというものについて、ご意見としていただければと思う。

本日はお配りしていないが、事前にいただいた意見を無記名で、一覧の形で配布することはできる。

(会長)

皆さんの意見は、共通に理解しておいた方が良いため、無記名でお配りした方が良く思う。それで共通認識をしていき、それがどのように計画に盛り込まれたかということについては、個別に説明をお願いしたい。

(委員)

基本目標の「子どもを生み育てやすいまちを創る」というところで、「子どもを生み」というところの政策が十分ではないように思う。合計特殊出生率の目標である1.86というのは、30年前と同水準で、非常に困難な数値であると思う。

もっと配偶者を持って子どもを生むというところに重点を置いた施策を立ち上げて欲しい。

(会長)

配偶者を持つという部分の施策を考えていただきたい。

(委員)

出生率を上げるという目標はよく見るものの、子どもが3人欲しいが、経済的な面とか保育所が足りないことで、実際は1~2人になっていることがある。また、女性が働きたいが両立が難しいとの意見も聞く。

人口目標の裏づけはあるのか、或いはただの仮説なのかが知りたい。

また、以前、研修で行った海外では、経済的状況にとらわれなくて、子どもたちが自然にいつでも文化に触れられるような環境になっており、感銘を受けた。文化芸術の分野でいろいろな施策は出ているが、そのような環境になるのか知りたい。

(事務局)

目標値が仮説なのかという点について、施策が実施できたならば、効果が出て36万人につながるという積算があるわけではない。

香川県が2060年の段階で、このままいけば現在の98万人ほどの人口が60万人になるという推計を、施策を講ずることにより76万人にするという目標を示している。高松としては県内における都市としての力や責任を考え、香川県の平均値よりは、やや高いところを目指すべ

会議の経過及び結果

きである、という考え方に立っている。また、現在の出生率が平均と比べて0.06高いという水準にあるため、それを維持していくということで36万人として置いている。

具体的な施策としては、特に子どもを生ま育てるという部分について、子どもの医療費の助成や、現在検討中ではあるが、保育所・幼稚園への経済的な負担の軽減、小学校等に通学している子どもを預かる仕組みの拡充の検討を進めている。

また、文化芸術の関係で経済的な面にかかわらず、触れられる環境づくりが必要ではないかと感じる。今現在それに関する具体的な取組について説明はできないが、こういった施策が可能か、関係者と協議したい。

(委員)

総合戦略に位置づけられた個別事業について、完成版に当たっては主な事業一つ一つに何らかの事業の説明が付けられるのか。また、今回ここに並べられた事業について、どれが新設・改善された事業で、どれが既存事業なのかを明確にした方が議論しやすいと思うので、お聞きしたい。

(事務局)

個別の事業に対する書き込みは予定していない。

また、記載している事業については、毎年度、行政評価システムで各担当課が評価をしながら進めている。効果の有無はしかねるが、いずれにせよ、既存の事業だけを抜き出して記載している。資料に空欄の部分があるが、事業として取り組む想定はあるが、まだ書き込めていない状況にある。

(会長)

新しい事業を盛り込んでいかないと少し難しいのではないかとと思うので、検討をお願いしたい。

(委員)

そもそも45年後に高松はあるのか。恐らく明治時代以降、45年というスパンをとって同じ高松のエリアだったことはないと思う。

そう考えると、今の高松はないと思われる。もしかしたら広がっているかもしれないし、狭くなっているかもしれない。また、インフラが整備されたら四国に支店を置かない会社が多く出てきて、大阪から通うということも出てくるかもしれない。

一步引いた部分の政策、香川全域のことを高松が視野に入れて政策を行っても良いと思うし、高松でしなくても良い事業が出てくるかもしれない。そのような前提の部分に切り込んでいったほうが、面白いのではないかと思う。

(委員)

人口ビジョンの資料を見れば、理想的な子どもの数として2人ないしは3人と答えている方が非常に多いが、データを見ると、理想的な子どもの数より少ない。

やはり、経済的な理由で子どもを希望する数まで生まない、或いは1人も生めないということなので、経済的な支援は国や県の施策待ちとなってしまうが、国や県に働きかけつつ、先行して市単独で経済的支援の枠を広げていかないと、目標とする合計特殊出生率には近づけないと思う。財政的に難しいのも分かるが、3人目を妊娠したが育てられないので墮胎をしてしまうということが多くある。例えば、そういったケースに対応する相談窓口を独自に設けたり、子どもを持ちたくて持てない夫婦に対する支援や、里親の斡旋などで、生まれてくる子どもを増やす、また、その生まれた子どもが健全に育っていくような市独自の支援をして欲しい。

会議の経過及び結果

(委員)

コンパクトシティの議論になったときに私の中で、テーマになっていることがあり、「ジェントリフィケーション」という用語がある。何かというと中心市街地に人をコンパクトに集めていくと地価が上がっていくため、中心部に貧しい人が住めなくなることに伴い、若い世代や子育て世代は外に拡大をしていくという現象が起きる。

高松の街中で若い世代が緑地とか公園で子育てするときに、玉藻公園は有料であるし、文化に子供が触れるといっても、漆や盆栽や庵治石は裕福な人達の文化である。特に小さな子どもが文化や緑地などの豊かさに触れられる環境が必要である。

ヨーロッパだと公園やスポーツ施設が全部無料であり、音楽イベントは全員が無料で享受できる。このような場所が提供されていることは都市の暮らしの中で豊かなものを提供できているということなので、このような視点を盛り込むと良い。

(委員)

女性が社会進出し、仕事を続けていくと、出産のチャンスと仕事のキャリアの時期が重なるため、婚期の機会を延ばしてしまうことがある。これにより、婚姻の年齢が上がると、子どもの数が現実的に少なくなる可能性がある。

私が地方に移住した理由は、地方は子育てをしやすかったためである。移住者であり、こちらには親戚も身寄りもないが、特に年配の方が面倒を見てくれるという話を聞き、地方で移住者であっても結婚し、子どもを生み育て、ワーキングママとして働きたいという展望があり、こちらに来た。香川の場合は婚姻の年齢が少し早く、その後のキャリアがまだまだ作れると思うので、その後のキャリア支援を5年、10年していけば、女性がもっと仕事を選んでキャリアを積み、30代以降で結婚できるという事例が増えていくと思う。

2点目として、「婚活」となると行きにくいと感じる。香川は市民団体によるイベントが多くある。私が関与している市民団体のイベントからもカップルが成立している。ボランティアとしてイベントの中に入っていくと、自然に出会える状況になるのではないかと思う。

3点目であるが、Uターン・Iターンは、やった人にしか分からないので、私のようなUターン・Iターン者をうまく使ってもらい、HPに載せるなどして、Uターン・Iターンを検討している方の後押しになればと思う。

(会長)

実際の移住の経験を基に、Uターン・Iターンの暮らし見える化をしていけば良いのではないか。

(委員)

いろいろな意見をまとめていく上で資料が作られたのだと思うが、いくつかの方向性があるが、それらを重ね合わせるところに解決策があるのではないか、それが今は逆に見えにくくなっているのではないかと思う。

例えば、高松市の場合はアート（芸術）があるが、単なるアート（芸術）の振興だけではなく、先を見据えるならば、ビジネス化・産業化していくなり、子供の環境に生かすなり、色々なシナジーが見込まれるため、重なるところをどう強化するかである。

今夏にロサンゼルス・バンクーバーに調査に行った際、バンクーバーでグランビルアイランドというところがあって、そこには考えられるありとあらゆるものがある。単なる観光だけではなく、観光から産業、教育、子育てまで含めた色々なものが相対的に狭いところに集まっている。

会議の経過及び結果

グランビルアイランドは、日本の香川・高松にとっても総合的に参考となる象徴的な空間であった。そうした一見するとバラバラになってしまっているものを、総合的に重ねて取り組んでいくという発想をすれば、面白いヒントが見つかるのではないかと思う。

(委員)

私の事務所では、3人の従業員がおり、全員女性である。子育て世代の方に短時間労働を推進することから、あえて時給にして欲しいという方もいた。雇い主と労働者がしっかりと折り合いをつけて、きちんと働きやすいような形になれば良い。結局、多様な働き方ができるということにもう少し働きかけていけば、働きやすい環境になるのではないかと思う。

(2) その他

(事務局)

今回の第4回目の懇談会は9月25日(金)を予定している。本市の人口ビジョン、総合戦略については、10月末までの策定を目指していることから、次回、懇談会としては区切りをつけたいと考えている。原案に対する考え方をある程度示したいと考えている。

(会長)

これから事務局の方で原案を作成してもらうことになるので、何かご意見がある方は早めに事務局のほうに出しただければと思う。

(閉会)